

ミュンヘンだより

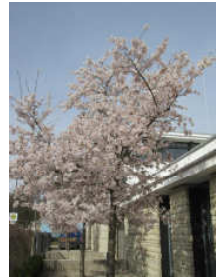
NO.4
2014.4.1

ミュンヘンにもいよいよ本格的な春が訪れ、校舎横の桜も今満開です。その桜を眺めつつ新たな気持ちで新学期のスタートを切れるよう、気持ちを切り替えて日々の業務に励む今日この頃です。

ミュンヘンでの生活もいよいよ3年目を迎えました。今年度は派遣教員集大成の年として、これまでの反省を生かしつつ、自分としてできる精一杯のことをしていきたいと思います。と同時に、ぜひ新たなことにチャレンジして、ここミュンヘンに何かを残していきたいと思うのは少々欲張りでしょうか。

今回の「ミュンヘンだより」は、これまで2年間の生活を通じて感じたドイツ・ミュンヘンらしい風物についてお伝えします。

ミュンヘン日本人国際学校 山本 泰



ミュンヘンの春

日本で春を感じるものといえばやはり桜でしょうか。学校の横にはソメイヨシノがありますが、市内のあちこちで八重桜や山桜などの花を目にします。そして花が散ったあとにはサクランボがなっていることもあります。しかし、ミュンヘンで春を感じさせるものといえば何とんでも「シュパーゲル（白アスパラガス）」です。

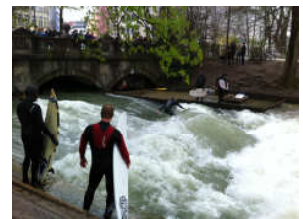
この時期は、どこのレストランでもシュパーゲルの特別メニューが用意されています。最もオーソドックスなのは、茹でたシュパーゲルに溶かしバターまたはオランダソース（卵黄とバターで作られたトロトロしたソース）をかけ、ジャガイモとハム（または生ハム）が添えられたもの。これがメインディッシュとして出されます。ただし、シュパーゲルを楽しむ期間は短く、4月中旬から市場やスーパーマーケットに出始め、6月24日をもって出荷時期は終わりと



されています。また、産地により値段の幅がかなりありますが、シュパーゲルは高価な野菜で、高いものは1kg 10ユーロ以上するものもあります。そして、なんとドイツの全農業面積のうち、約20%に当たる畑がシュパーゲル畑。シュパーゲルは、名実ともにドイツの「野菜の王様」として君臨しているわけです。

ミュンヘンの夏

ミュンヘンの夏はとても短く、だからこそ人々は目一杯夏を楽しんでいるように見えます。休日ともなると市内を流れるイザール川の周りには、日光浴と水遊びに訪れる人であふれかえります。また市内の公園を流れる用水路では、速い流れと波を利用してサーフィンをする人をよく見かけます。



そんなミュンヘンでは毎年何人かが池や川で事故に遭いますが、そんなときに活躍するのが水難救助の資格を持った救急隊員です。そしてなんと学校のプールで指導する教員にも水難救助の資格が必須とされているため、去年の夏、私もその資格取得に挑戦しました。

その試験の内容ですが、まず、学科試験のための座学講習を約8時間、2日間に分けて受講します。日本人の通訳の方にお世話になりながら、水辺での事故の種類や原因、救助の際の行動の仕方などを勉強しました。次に心肺蘇生法の実技講習を受けて、いよいよプールでの実技です。プールに入ると、ウォーミングアップで400m泳ぎ、それから講習が始まるなど、なかなかハードでした。そして最後に実技試験を受けるのですが、例えば、



- 100mを衣類を着用した状態で4分以内に泳ぎ、最後に水中で脱衣する。
- 潜水して水深3mほどの床底から5kgのリングを取ってくる。
- 人を押しながら（引きながら）50m搬送して泳ぐ。
- 200mを10分以内に泳ぐ。そのうち100mは仰向けの状態で腕を使わずに足の蹴りだけで泳ぐ。

といった課題が10種類ほど出され、全て1回でクリアしなければその時点で不合格になってしまいます。今年は私を含めて4名の教員が受験しましたが、全員必死の思いでがんばって何とか合格することができました。

ミュンヘンの秋

ミュンヘンの名物といえばビールを思い浮かべる人が多いと思いますが、毎年9月末からミュンヘンで開催される「オクトーバーフェスト」はビールのお祭りとして有名です。もともとは、バイエルン王国の王太子の結婚式を祝うお祭りが起源で、やがて地元産のビールを中心にした収穫祭になっていったようです。



そんな「オクトーバーフェスト」ですが、平日夕方までに会場に行くと意外に家族連れが多いことに驚きます。ビール祭の会場に子どもが一緒というのも不思議な気がしますが、実は会場にはたくさんの遊戯施設があり、場所によっては遊園地のような雰囲気になっています。子どもだけでなく老若男女とわず誰もが楽しんでいる様子はほほえましい風景です。開催期間中には、日本人学校の多くの子どもたちも両親や友達の家族と一緒に会場を訪れているようです。



ミュンヘンの冬

ドイツ・ミュンヘンの冬というと「長く暗い」というイメージがあります。実際、朝は8時頃まで明るくならず、そして、3時くらいには暗くなり始めます。だからこそ冬の晴れ間は貴重で、バス停ではたくさんの方がお日様の方を向いて立っていたり、どんなに寒くても外を散歩したりベランダで日光浴したりする姿をよく見かけます。



そんな冬の楽しみの一つが「そり滑り」です。雪の降る季節になると市内のスポーツ店ではいろいろな種類の「そり」が売り出され、平日にはそりに乗って登園する幼児を見かけます。土・日曜日には、近所の公園や道路脇の斜面などでたくさんの方が「そり滑り」をしています。どちらかというと子どもより大人の方が楽しそうなのは、やはり小さい頃の記憶がそうさせるのでしょうか。